



仙台ファーストタワー 「DBJ Green Building 認証制度」における 「ゴールド」の認証を取得

日本土地建物株式会社（東京都千代田区霞が関 1-4-1、代表取締役社長 吉田卓郎）が、ヒューリック株式会社（代表取締役社長 西浦三郎）と共同で開発した「仙台ファーストタワー」（仙台市青葉区）が、日本政策投資銀行（代表取締役社長 橋本徹、以下「DBJ」という）による「DBJ Green Building 認証制度」において、『ゴールド』の認証を受けましたのでお知らせいたします。今回の「仙台ファーストタワー」への認証は、東北地方のオフィスビルでは初の認証となります。

また、日本土地建物にとって、「有明セントラルタワー」（プラチナ認証）、「日土地山下町ビル」（ゴールド認証）に次いで3棟目の認証となります。

「DBJ Green Building 認証制度」とは、2011年4月に、DBJにより創設された制度で、ビルの環境性能、防災、防犯、及び不動産を取り巻くステークホルダーからの社会的要請、時代の要請に応えた優れた不動産を選定・認証し、“Green Building”の普及促進、ビルオーナーの不動産管理・運営努力の「見える化」を目的としています。

認証は、DBJ が独自に開発したスコアリングモデルを利用し、「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の4段階で評価されます。「ゴールド」認証は、「極めて優れた“環境・社会への配慮”がなされたビル」としての評価されたものです。

「仙台ファーストタワー」は、仙台市の「都市再生特別特区」適用第1号として、2009年に竣工したオフィスと商業の複合施設です。ハイスペックな事務所棟とグレード感の漂う商業棟をガラスの空間であるアトリウムでつないだ設計で、事務所棟とアトリウム棟の地下1階の柱頭部分には免震構造を採用しています。この免震構造は、先の東日本大震災時にも効果を発揮しました。

同タワーは、安全性、先進性を重視すると同時に、“都市への貢献”も重要なコンセプトとしています。特に、開放的なガラスの空間の「アトリウム」、市民に開放している「屋上広場」、建物をセットバックして緑化した歩道状空地は、四季を通じて人が行き交い集う“賑わいの空間”となっています。

中でもアトリウムは、「ガラスとコンクリートに囲まれながらも、壁面のグリーンと差し込む光がみずみずしさを演出している。」「中に入ると癒され、温かな気持ちになる」など、『せんだいデザインウィーク／街中グッドデザイン展』などで市民から高い評価を受け、街の人気スポットとなっています。

今回の認証では、

- ① 多くの環境・省エネ配慮の技術を取り入れながら、防災への取り組みも進めることで、テナント利便性を向上させている点。
- ② アトリウムを使った各種イベントなど、地域に根ざしたオフィスビルの運営を行っている点などが高く評価されました。

□ 物件詳細について



DBJ Green Building	ゴールド:極めて優れた「環境・社会 への配慮」がなされたビル DBJ Green Building Gold ☆☆☆
物件名	仙台ファーストタワー
所在地	宮城県仙台市青葉区一番町 3-1-1
敷地面積	約 2,436 m ²
延床面積	約 29,384 m ² [商業棟含む]
竣工	2007年6月
規模	地下2階 地上24階 塔屋1階
構造	鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造

- 仙台市「都市再生特別地区」適用 第1号
- 国土交通大臣「民間都市再生整備事業計画」認定
- (財)民間都市開発推進機構がTMKに出資参画。(「まち再生出資業務」による全国2例目の事例。資産流動化法に基づく特別目的会社への優先出資としては第1号案件)

- ◇ 2009年 せんだいデザインウィーク「街中プロジェクト 街中グッドデザイン展」
「せんだいデザインウィーク大賞」受賞 (アトリウム)
(仙台の建築、店舗、ショーウィンドウなどから仙台市民がよいと思った
デザインをデジカメなどで記録し、発表するデザインコンテスト)
- ◇ 2009年 平成21年照明普及賞「優秀施設賞」受賞
- ◇ 2011年 第31回「東北建築賞・特別賞」受賞

■都市貢献施設

- ①「アトリウム」 仙台ファーストタワーの中心に位置する、光と緑あふれる大空間。
「仙台七夕まつり」、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、「クリスマスイベント」など、公共のイベント会場・展示場として利用されている。



<仙台七夕まつり>



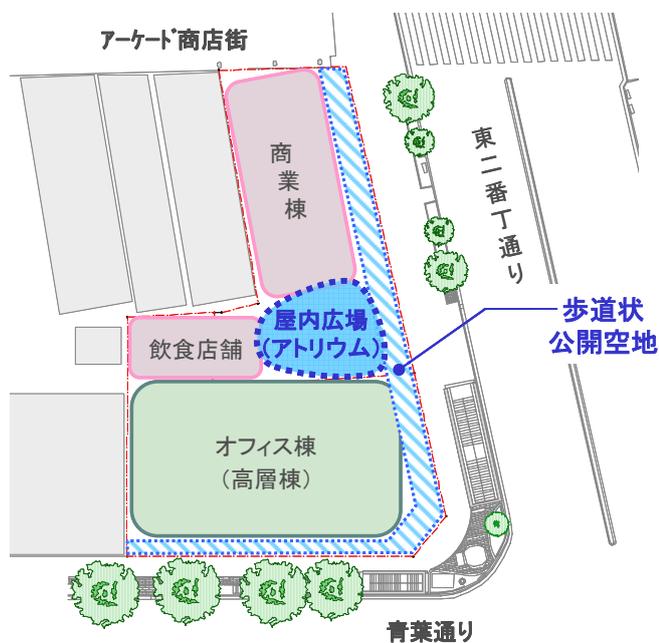
<クリスマスイベント> 階段のLED照明は、季節に合わせた色とりどりの絵を描く



②「屋上広場」 商業棟屋上には都会的な緑化空間が広がる。飲食店舗を誘致して仙台の新たな賑わいスポット、市民の憩いの場として人気が高い。



③「歩道上空地」 同タワーは青葉通りと東二番町通りに面しており、歩道の交通量が非常に多いことから、建物をセットバックして歩道を広く確保。歩道にはケヤキ並木に呼応するように、緑化計画を行い、街路との調和を図った。



□ 【ご参考】日土地グループの環境対策について

日土地グループは、経営方針の一つに「企業活動を通じて社会に貢献する」という理念を掲げており、早くから環境問題に取り組んできました。

2010年11月には、環境対応を積極的に推進するための専担部署として、「環境対策推進室」を新設。新築ビル、既存ビル、住宅、自社使用オフィスなど様々な分野での環境対策に取り組んでいます。

新築ビルの分野においては、2012年3月14日、当社の環境フラッグシップビルとなる、ハイレベルの環境配慮型ビル「日土地虎ノ門ビル」を着工しました。国際的な建築物環境評価「LEED-CS」のゴールドランクの取得、国内の建築環境総合性能評価システムである「CASBEE」のSランクの取得、そしてPAL削減率、ERRにおいて東京都基準における最高ランクであるレベル3の取得など、国内の中規模ビルでは初となる、環境認証の“トリプル取得”を目指しています。

経済産業省・資源エネルギー庁主催「ビルの省エネルギー推進表彰制度」においては、2009年、2010年の2年連続で、本社である「日土地ビル」が「省エネルギー管理優良ビル」として表彰を受けました。

また、ビルエネルギー消費量の6～8割を占めるといわれるテナント企業様との協働による省エネを推進しており、テナント企業様との環境対策推進会議や環境に関する講演会・勉強会を開催。2009年には、テナント企業様への省エネの啓蒙活動の一つとして「省エネアイデアコンテスト」も実施いたしました。

更に、「コンバージョン」(用途変換によって不動産を再生させる建築法。廃材を削減し、環境に優しい建築)を推進しており、オフィスビルを賃貸マンションへコンバージョンした「ラティス青山」「ラティス芝浦」「ラティス三宮」を始め、5件のコンバージョンを手がけました。

今後も「社会、人、環境、そして時代に優しく共存する」をテーマに、グループ全体でCO2削減に取り組んでまいります。

以上

【お問い合わせ】

日本土地建物株式会社
経営統括部 広報室(原)
TEL03-3501-6906 FAX03-3506-8940